



市長とのトークゼミ

栄養のゼミで味の実験

参加希望生徒は、掲示される案内を見て自分でエントリーする。参加への強制はしないが教員からは勧めていて、しだいに主体的参加が定着してきた。

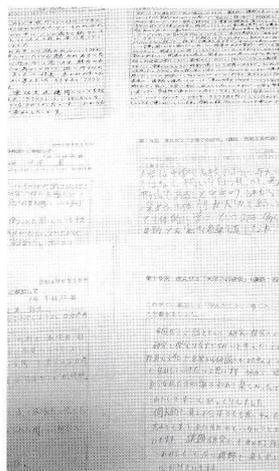


案内資料

運営は、生徒に体験させたいことがある教員がゼミを設定し、担当者となる。固定的な担当者は定めていない。ゼミは60分を基本とし、そのうち3分の1以上を生徒とのディスカッションとするようお願いしている。一度終了した後で、生徒に希望者がいれば講師の状況に応じてさらに延長してもらう。ゼミから学んだこと、得たこと、印象に残ったことそこから考えたことを振り返りシートに記録している。誰かに見てもらうための記録ではなく自分のための記録として残す。

発展的なゼミとして、生徒が講師となるゼミや生徒が講師を依頼し、運営者となるゼミも行った。また、生徒が講師となって地域の人に対して行うゼミも計画している。

ゼミは、授業などと別にして、放課後に実施することで自由度が高く数多く設定できる。参加で



振り返りシート

きなかった生徒も、実施後 Teams に要点を記載して概要を知ることができるようにしている。

<生徒の変容>

参加生徒は、関心があり主体的に参加しているので、会場の席は前から順に埋まり、積極的に質問や意見を出す生徒が増えてきた。生徒にとっては学びを主体的に行うことが標準となりつつある。ゼミへの参加が主体性を高め幅広い見方・考え方への変容に繋がっている。

(生徒の振り返りの一部: 主体性に関する部分)

普段の生活で自分の好きなものや興味のあるものに対して自分で調べたり観察したりしていきたい。研究は失敗して当たり前、もっと自主的に行動して自分で物事を決める。いま、自分のできることを考え、自分から行動していきたい。大切なのは主体性や何回失敗してもあきらめないことだとわかった。研究は自ら問いを見つけ考え解決することであり、自分から学びを深める主体性が大切であることがわかりました。言葉に出して話し合いをすることで東かがわの良さが出てきたことが心に残った。



主体的に学ぶ生徒、大学教授のゼミ

献血推進活動

三本松高校が取り組んでいる献血推進活動が評価され、日本赤十字社より銀色有功賞を授与されました。

8月2日に香川県庁で行われた贈呈式には、「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」の代表を務める3年3組西尾さくらさんが出席しました。日本赤十字社香川県支部長である浜田恵造知事から、表彰状を手渡されました。